

2024年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年5月14日

上場会社名 NANO MRNA株式会社 上場取引所 東
コード番号 4571 URL https://www.nanomrna.co.jp/
代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 秋永 士朗
問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 藤本 浩治 TEL (03) 6432-4793
定時株主総会開催予定日 2024年6月27日 配当支払開始予定日 -
有価証券報告書提出予定日 2024年6月28日
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト及び機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期の連結業績 (2023年4月1日~2024年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期	135	△32.9	△864	-	△749	-	△780	-
2023年3月期	202	-	△1,246	-	△1,104	-	△1,310	-

(注) 包括利益 2024年3月期 △892百万円 (-%) 2023年3月期 △1,262百万円 (-%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2024年3月期	△11.10	-	△20.4	△13.8	△637.9
2023年3月期	△18.70	-	△27.0	△17.0	△616.3

(参考) 持分法投資損益 2024年3月期 -百万円 2023年3月期 -百万円

(注) 当社は、2022年3月期において、連結財務諸表を作成していないため、2023年3月期の対前期増減率の記載をしておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期	5,071	3,421	67.2	48.39
2023年3月期	5,784	4,253	73.5	60.61

(参考) 自己資本 2024年3月期 3,405百万円 2023年3月期 4,251百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年3月期	△585	793	3	1,575
2023年3月期	△1,087	1,207	-	1,309

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭			
2023年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00	-	-	-
2024年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00	-	-	-
2025年3月期(予想)	-	0.00	-	0.00	0.00	-	-	-

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（％表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51	△62.0	△1,242	—	△1,192	—	△1,206	—	△17.14

※ 注記事項

（1）期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：有
- ④ 修正再表示：無

（注）詳細は、添付資料P.13「3. 連結財務諸表及び主な注記（5）連結財務諸表に関する注記事項（会計上の見積りの変更）」をご覧ください。

（3）発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2024年3月期	70,393,158株	2023年3月期	70,151,558株
2024年3月期	11,428株	2023年3月期	11,427株
2024年3月期	70,295,256株	2023年3月期	70,091,979株

（参考）個別業績の概要

1. 2024年3月期の個別業績（2023年4月1日～2024年3月31日）

（1）個別経営成績

（％表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期	135	△32.9	△720	—	△605	—	△635	—
2023年3月期	202	△23.4	△1,136	—	△995	—	△1,202	—

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期	△9.04	—
2023年3月期	△17.15	—

（2）個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭	
2024年3月期	5,042	3,734	3,734	73.8	52.84		
2023年3月期	5,695	4,422	4,422	77.6	63.03		

（参考）自己資本 2024年3月期 3,719百万円 2023年3月期 4,420百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法）

当社は、2024年5月16日にアナリスト及び機関投資家向けの決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容（音声）については、当日使用する決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 連結貸借対照表	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
連結損益計算書	8
連結包括利益計算書	9
(3) 連結株主資本等変動計算書	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(会計方針の変更)	13
(会計上の見積りの変更)	13
(セグメント情報等)	13
(1株当たり情報)	13
(重要な後発事象)	13

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当社は、2023年1月にmRNA医薬候補及びそれに関する知的財産（IP）を創製し、製薬企業に導出することにより収益を得るという事業モデルに転換しました。当連結会計年度においては、事業推進の基盤となるアクセリード株式会社及び傘下企業、並びに株式会社IPガイアとの協業体制をより緊密なものとし、人事交流なども進めております。mRNA医薬については、花王株式会社との包括共同研究契約下に免疫寛容ワクチンの共同研究を開始し、また初期段階のパイプラインの推進、及び新規課題の探索を進め、さらに既存パイプラインの研究開発推進などに取り組んでまいりました。

(mRNA医薬パイプライン)

mRNA医薬は、2023年のノーベル生理学・医学賞を受賞した新たなモダリティです。本技術は、さまざまな疾患へ展開されつつあり、COVID-19ワクチン以外の感染症予防ワクチン、がん治療ワクチン、遺伝性疾患治療薬、また組織再生医薬などにおいて臨床POCが得られてきています。当社の変形性膝関節症に対するmRNA組織再生医薬は、感染症予防ワクチン以外では国内初とも言えるものです。本品の医師主導治験は、当期中の開始を目指して規制当局と相談を進めてまいりました。その結果、本医師主導治験の開始を2024年度後半とすることとし、準備を継続しております。花王株式会社との共同研究につきましては、順調に推移しており、新たなプロジェクトの開始についても協議を進めております。今後、企業及びアカデミア等のさまざまなパートナーとの共同研究開発などによりパイプラインを拡充し、創製した開発候補の製薬企業等へのライセンスアウトを進めてまいります。

- RUNX1 mRNA： アクセリード株式会社と共同で設立した株式会社PrimRNAにおいて、変形性膝関節症患者を対象とした医師主導第Ⅰ相臨床試験に向け、規制当局との相談を進めております。RUNX1のmRNAは、軟骨の増殖・分化に関わる転写因子のmRNA医薬で、変形性膝関節症の進行抑制及び疼痛の軽減を実現する革新的な疾患修飾型治療薬となり得るものです。なお、本プロジェクトは、AMEDの医療研究開発革新基盤創成事業（CiCLE）に採択されております。
- 免疫寛容ワクチン： 花王株式会社が独自開発した免疫制御技術を用いて共同で実施した研究成果に基づき、2023年11月、mRNA医薬の創製に向けた包括共同研究契約を締結いたしました。共同研究では、アレルギー疾患をはじめ数多くある免疫疾患を対象に治療ワクチンの研究から、順次、候補品を創出し、開発企業へライセンスアウトすることを目指しております。
- 感染症予防ワクチン： 名古屋大学発ベンチャーCrafton Biotechnology株式会社が研究代表機関となり、AMED先進的研究開発戦略センター（SCARDA）事業に採択された感染症mRNAワクチンの研究開発が進められております。本研究開発は、RNA医薬に欠かせないCap化技術に日本発の新しい技術を適応したものです。当社は次世代バイオ医薬品製造技術研究組合（MAB組合、神戸）などとともに分担研究機関として参画し、非臨床試験及び臨床試験を担当いたします。

(mRNA医薬以外のパイプライン)

mRNA医薬以外のパイプラインの開発も継続して行っております。

- TUG1 ASO： 脳腫瘍の中で最も悪性度が高い膠芽腫を対象とするTUG1ASOの医師主導第Ⅰ相臨床試験が2024年2月に開始され、順調に進捗しております。TUG1は、長鎖非翻訳RNA TUG1に対するASO（アンチセンスオリゴ核酸）のDDS製剤であり、名古屋大学を中心として、AMEDの革新的がん医療実用化研究事業に2期連続で採択されております。当社は、分担研究機関として治療薬の供給及び薬物動態解析などを行ってまいります。なお、2023年8月に本課題の基盤となる2件の特許について、再実施許諾権（サブライセンス権）付独占ライセンス権を獲得し、導出活動を開始しております。
- NC-6100： 公益財団法人がん研究会有明病院において、医師主導第Ⅰ相臨床試験が実施されております。高用量コホートまで試験が進捗しており、薬物動態解析を進めております。NC-6100は、慶應義塾大学等との共同開発プロジェクトであり、転写因子PRDM14に対するsiRNAのDDS製剤です。

上記の他、コムレクス®耳科用液1.5%（開発コードENT103）は、2023年6月からセオリアファーマ株式会社により販売されております。

(販売事業の状況)

株式会社アルピオンが販売する美容液エクラフチュール及び薬用美白美容液エクシア ブライトニング イマキュレート セラム用の当社技術を応用した原材料を供給しております。

PRP療法を用いた不妊治療サポート事業につきましては、2024年5月に株式会社エイオンインターナショナルとの契約終了に伴い、終了する予定です。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、化粧品材料供給収入、ライセンス収入及び共同研究開発契約収入並びにPRP事業に係る売上等により135,508千円（前連結会計年度比32.9%減）、営業損失は864,415千円（前連結会計年度営業損失1,246,000千円）、経常損失は749,847千円（前連結会計年度経常損失1,104,580千円）、親会社株主に帰属する当期純損失は780,002千円（前連結会計年度親会社株主に帰属する当期純損失1,310,976千円）となりました。

なお、当連結会計年度におきまして、以下の営業外収益及び営業外費用並びに特別利益及び特別損失を計上しております。

- ・ 外国為替相場の変動による為替差益54,129千円を営業外収益に計上しております。これは主に、当社の保有する外貨建預金の評価替えにより発生したものであります。
- ・ 研究開発等に係る補助金収入45,638千円を営業外収益に計上しております。
- ・ 第21回新株予約権の発行に伴う、新株予約権発行費9,950千円を営業外費用に計上しております。
- ・ 当社の保有する株式を売却したことにより、投資有価証券売却益42,247千円を特別利益に計上しております。
- ・ 本店移転に伴う建物附属設備の減損処理を行ったこと等により、減損損失71,260千円を特別損失に計上しております。

(2) 当期の財政状態の概況

当連結会計年度末における資産は、主に現金及び預金の減少等により、前連結会計年度末に比べ713,111千円減少し、5,071,279千円となりました。負債は、主に未払法人税等及び預り金の増加並びに流動負債「その他」に含まれる未払金の増加等により、前連結会計年度末に比べ118,943千円増加し、1,649,891千円となりました。純資産は、親会社株主に帰属する当期純損失の計上による利益剰余金の減少等により、前連結会計年度末に比べ832,054千円減少し、3,421,388千円となりました。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ265,670千円増加し、1,575,263千円となりました。当連結会計年度のキャッシュ・フローの概況は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、585,081千円の支出（前連結会計年度は1,087,051千円の支出）となりました。研究開発の推進に伴う研究開発費の支出等による税金等調整前当期純損失777,512千円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、793,007千円の収入（前連結会計年度は1,207,913千円の収入）となりました。定期預金の預入による支出1,502,372千円、定期預金の払戻による収入2,502,032千円、有価証券の取得による支出5,800,000千円、有価証券の償還による収入5,738,390千円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、3,728千円の収入（前連結会計年度は一千円）となりました。新株予約権の発行による収入3,728千円等によるものです。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
自己資本比率(%)	97.0	94.8	77.6	73.5	67.2
時価ベースの自己資本比率(%)	175.8	274.3	253.1	291.0	256.8
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年)	—	—	—	—	—
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	—	—	—	—	—

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

※1 2020年3月期から2022年3月期は個別ベースの財務数値により計算しております。

※2 2023年3月期以降は連結ベースの財務数値により計算しております。

※3 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しています。

※4 キャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。

※5 「キャッシュ・フロー対有利子負債比率」、「インタレスト・カバレッジ・レシオ」については有利子負債がないため記載しておりません。

(4) 今後の見通し

当社は、2023年1月にmRNA医薬の開発候補及び知的財産を創製し、大きな資金及びリソースの投入が必要な臨床開発を開始する前のステージで製薬企業へ導出することにより収益を得るという事業モデルに転換しました。当社の成長戦略として、以下の3項目を重点課題として取り組んでまいります。

①mRNAシーズの探索

自社における探索に加え、IPガイア株式会社との連携の下に、企業、バイオベンチャー、及びアカデミアからシーズを導入し、mRNA医薬のパイプラインの拡充を図ります。また、花王株式会社との共同研究においても、魅力あるパイプラインの創出を継続してまいります。

②アクセリドグループ及びIPガイア株式会社との連携強化

アクセリドグループ及びIPガイア株式会社との連携は、当社の事業モデルを進める基盤となるものです。今後、人的交流をはじめとした連携の強化をさらに推進、効率的に候補化合物及び知的財産を創出することにより、持続的に収益を獲得してまいります。

③医師主導治験の実施

以下の2つのパイプラインについて、AMED資金を用いて医師主導治験を行い、臨床POCの取得など製品価値を向上させ導出を促進します。

- ・RUNX1 mRNAは、アクセリド株式会社と共同で設立した株式会社PrimRNAが主体となり、国立大学法人東京医科歯科大学と共同で研究開発を進めております変形性膝関節症(OA)に対する疾患修飾薬です。
- ・TUG1 ASOは、国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学との共同研究開発を進めております脳腫瘍の中で最も悪性度の高い膠芽腫に対する治療薬です。

これらにより、第29期(2025年3月期)の研究開発費は、929百万円を見込んでおります。

以上により、主要経営指標であります売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、それぞれ51百万円(当連結会計年度比62.0%減)、△1,242百万円(当連結会計年度営業利益△864百万円)、△1,192百万円(当連結会計年度経常利益△749百万円)、△1,206百万円(当連結会計年度親会社株主に帰属する当期純利益△780百万円)を見込んでおります。

売上高の主な内訳は、化粧品原料供給収入に係る売上等を見込んでおります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、会計基準につきましては日本基準を適用しております。今後のIFRS（国際財務報告基準）の検討につきましては、国内外の諸情勢を踏まえて、適切に対応していく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,811,624	2,077,635
受取手形	8,470	28,270
売掛金	27,500	550
有価証券	1,632,079	2,200,000
原材料及び貯蔵品	648	184
その他	188,503	155,439
流動資産合計	4,668,826	4,462,079
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	56,721	92,354
減価償却累計額	△56,721	△92,354
建物及び構築物（純額）	0	0
機械装置	382,344	296,649
減価償却累計額	△382,344	△296,649
機械装置（純額）	0	0
その他	12,147	31,986
減価償却累計額	△12,147	△31,986
その他（純額）	0	0
有形固定資産合計	0	0
無形固定資産	149	0
投資その他の資産		
投資有価証券	886,168	357,820
その他	229,246	251,379
投資その他の資産合計	1,115,414	609,199
固定資産合計	1,115,564	609,199
資産合計	5,784,390	5,071,279

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,183	250
未払法人税等	5,544	17,251
預り金	251,246	338,117
その他	101,127	130,920
流動負債合計	364,101	486,538
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	1,108,916	1,108,916
繰延税金負債	9,488	—
資産除去債務	25,997	31,992
その他	22,444	22,444
固定負債合計	1,166,846	1,163,352
負債合計	1,530,947	1,649,891
純資産の部		
株主資本		
資本金	119,150	142,465
資本剰余金	5,499,591	5,522,905
利益剰余金	△1,371,505	△2,151,507
自己株式	△27	△27
株主資本合計	4,247,209	3,513,835
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,180	△108,180
その他の包括利益累計額合計	4,180	△108,180
新株予約権	2,052	15,732
純資産合計	4,253,443	3,421,388
負債純資産合計	5,784,390	5,071,279

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
売上高	202,189	135,508
売上原価	42,590	24,552
売上総利益	159,599	110,956
販売費及び一般管理費	1,405,599	975,371
営業損失(△)	△1,246,000	△864,415
営業外収益		
受取利息	25,369	26,183
為替差益	60,464	54,129
補助金収入	70,038	45,638
雑収入	143	39
営業外収益合計	156,016	125,990
営業外費用		
新株予約権発行費	5,633	9,950
社債発行費	5,671	—
株式交付費	469	173
雑損失	2,820	1,299
営業外費用合計	14,596	11,422
経常損失(△)	△1,104,580	△749,847
特別利益		
固定資産売却益	4,531	1,351
新株予約権戻入益	27,493	—
社債償還益	39,030	—
投資有価証券売却益	—	42,247
特別利益合計	71,056	43,598
特別損失		
固定資産除売却損	50	2
減損損失	6,912	71,260
投資有価証券評価損	268,000	—
特別損失合計	274,962	71,262
税金等調整前当期純損失(△)	△1,308,486	△777,512
法人税、住民税及び事業税	2,490	2,490
法人税等合計	2,490	2,490
当期純損失(△)	△1,310,976	△780,002
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△1,310,976	△780,002

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
当期純損失(△)	△1,310,976	△780,002
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	48,135	△112,360
その他の包括利益合計	48,135	△112,360
包括利益	△1,262,840	△892,362
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△1,262,840	△892,362
非支配株主に係る包括利益	—	—

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	347,832	9,950,079	△4,717,472	△27	5,580,413
当期変動額					
新株の発行	19,150	19,150			38,301
資本金から剰余金への振替	△247,832	247,832			—
欠損填補		△4,717,472	4,717,472		—
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△1,310,976		△1,310,976
連結範囲の変動			△60,528		△60,528
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	△228,681	△4,450,488	3,345,967	△0	△1,333,203
当期末残高	119,150	5,499,591	△1,371,505	△27	4,247,209

	その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△43,955	△43,955	30,415	5,566,873
当期変動額				
新株の発行				38,301
資本金から剰余金への振替				—
欠損填補				—
親会社株主に帰属する当期純損失(△)				△1,310,976
連結範囲の変動				△60,528
自己株式の取得				△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	48,135	48,135	△28,362	19,772
当期変動額合計	48,135	48,135	△28,362	△1,313,430
当期末残高	4,180	4,180	2,052	4,253,443

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	119,150	5,499,591	△1,371,505	△27	4,247,209
当期変動額					
新株の発行	23,314	23,314			46,628
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△780,002		△780,002
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	23,314	23,314	△780,002	△0	△733,373
当期末残高	142,465	5,522,905	△2,151,507	△27	3,513,835

	その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	4,180	4,180	2,052	4,253,443
当期変動額				
新株の発行				46,628
親会社株主に帰属する当期純損失(△)				△780,002
自己株式の取得				△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△112,360	△112,360	13,679	△98,681
当期変動額合計	△112,360	△112,360	13,679	△832,054
当期末残高	△108,180	△108,180	15,732	3,421,388

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純損失 (△)	△1,308,486	△777,512
減価償却費	136	1,104
受取利息	△25,369	△26,183
為替差損益 (△は益)	△59,409	△54,016
株式報酬費用	24,643	41,529
補助金収入	△70,038	△45,638
株式交付費	469	173
新株予約権発行費	—	9,950
新株予約権戻入益	△27,493	—
社債償還益	△39,030	—
固定資産除売却損益 (△は益)	△4,481	△1,348
投資有価証券売却益	—	△42,247
投資有価証券評価損	268,000	—
減損損失	6,912	71,260
売上債権の増減額 (△は増加)	20,192	7,150
前渡金の増減額 (△は増加)	6,488	28,470
棚卸資産の増減額 (△は増加)	32,761	464
仕入債務の増減額 (△は減少)	4,224	△5,933
未払金の増減額 (△は減少)	△77,501	24,887
預り金の増減額 (△は減少)	139,715	86,870
その他	△45,634	70,557
小計	△1,153,902	△610,459
利息の受取額	19,161	27,848
補助金の受取額	50,180	19
法人税等の支払額	△2,490	△2,490
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,087,051	△585,081
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,502,032	△1,502,372
定期預金の払戻による収入	2,447,956	2,502,032
有価証券の取得による支出	△6,240,350	△5,800,000
有価証券の償還による収入	7,000,000	5,738,390
投資有価証券の取得による支出	△500,000	△200,000
投資有価証券の売却による収入	—	140,055
敷金及び保証金の差入による支出	—	△31,742
敷金及び保証金の回収による収入	—	12,094
その他	2,339	△65,450
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,207,913	793,007
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の発行による収入	—	3,728
自己株式の取得による支出	—	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	3,728
現金及び現金同等物に係る換算差額	59,487	54,016
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	180,350	265,670
現金及び現金同等物の期首残高	1,097,044	1,309,592
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	32,198	—
現金及び現金同等物の期末残高	1,309,592	1,575,263

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

(資産除去債務の見積りの変更)

当連結会計年度において、不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務について、原状回復費用の新たな情報入手に伴い、見積りの変更を行いました。この見積りの変更による増加額2,995千円を変更前の資産除去債務残高に加算しております。

なお、見積りの変更に伴って計上した有形固定資産は、計上と同時にその全額を減損損失として処理しております。

(セグメント情報等)

当社グループは、医薬品等の研究開発及び製造販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載は省略しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1株当たり純資産額	60.61円	48.39円
1株当たり当期純損失金額	18.70円	11.10円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失金額であるため、記載しておりません。

2. 1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1株当たり当期純損失金額		
親会社株主に帰属する当期純損失(千円)	1,310,976	780,002
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損失(千円)	1,310,976	780,002
普通株式の期中平均株式数(株)	70,091,979	70,295,256

(重要な後発事象)

該当事項はありません。